

配置薬メーカー3社の卸部門の共同事業化 新会社設立と活性化への模索

発行：日本置き薬協会 事務局



(株)廣貫堂（富山市、塩井保彦社長）、大協薬品工業(株)（同市、石黒淳一社長）、(株)内外薬品（同市、笹山敬輔社長）が、来春、新会社を設立し各社の配置薬卸部門を統合することで基本合意し16日に発表された。配置薬の市場縮小が続く中、事業集約化で効率を高め、各社の経営基盤を強化する一方、新会社では配置薬の新たなビジネスモデルの構築も検討し、伝統産業を担う人材育成に取り組む。一昨年、富山県薬業連合会内に設けられた「配置薬振興委員会」の答申にあった「共同事業会社設立案」に沿って協議が進められ具体的なものとなった。

新会社「廣貫堂・大協・内外（仮称）」は来年4月に設立し、事業開始を予定。資本金は1億円未満とし3社が均等に出資。本社は内外薬品に置き、同社の笹山社長がトップに就く。

3社の卸部門の売上高は40億円程度と推定されるが、各社と直接取引の配置法人会社の売上が更に加われば、営業等の販売促進経費や共同発送による流通経費の大幅な削減などが見込まれる。

廣貫堂は「熊胆円」、「六神丸」等の伝統薬やドリンク剤、大協は「おきゅう膏」等の貼布剤、内外は「ケロリン」等の内服固形剤を得意とする。新会社ではこうした各社の強みを生かして事業体制を確立するとともに、他の配置薬メーカーにも参加を呼び掛ける考え。

配置業には「先用後利」（せんようこうり 先に用いて利を後にする）との言葉がある。将来を見据え「先憂後利」の対応が今回の発表になったが、「究極の対面販売」とも言われる配置業を「先用後棄」してはならず、配置業振興への叡智と努力を結集しなければならない。

本件に関するお問合せ先

日本置き薬協会 事務局

〒114-0023 東京都北区滝野川3-56-9

TEL. 080-6789-6165 FAX. 048-251-965

日 置 協